

## 1 麦類の栽培について

本年産は播種期の11月中旬から3月上旬まで気温が1.5℃高く推移したため、生育はやや進んでおり、11月16日に二条大麦を播種した圃場では、茎立期は平年より3日ほど早い3月7日頃でした。今後の気温は平年並みか高い見込みのため、出穂期は平年よりも早まると予想されます。

今後は排水対策や赤かび病防除の基本技術を徹底し、高品質麦の生産に取り組みましょう。

### ① 排水対策

登熟期の湿害は根の活性を落とし、粒の充実不足を招きます。

- ・圃場の排水溝の溝さらいをしましょう。
- ・まだ設置していない圃場は、周囲に排水溝を掘りましょう。
- ・排水溝は低く掘り下げて、圃場外の排水路につなぎましょう。

### ② 赤かび病防除

赤かび病は出穂期以降に天候不順が続くと発生の可能性が高くなります。また、比較的暖かい年に多発する傾向があります。不稔粒発生・登熟期連続降雨等は発生を助長する恐れがあります。

赤かび病が発生すると出荷できなくなるので、必ず薬剤散布を行いましょう。

#### ・二条大麦（ビール麦）

防除適期：穂揃い期の7～10日後

ポイント：登熟期間中に雨が多い場合は、1回目の7～10日後に2回目の散布をしましょう。

#### ・小麦

防除適期：1回目・開花始め（おおむね出穂期の7日後）、2回目・1回目の20日後

ポイント：登熟期間中に雨が多い場合は、3回目の散布を行いましょう。

#### ・はだか麦（ビューファイバー）

防除適期：1回目・開花始め（おおむね出穂期の7日後）、2回目・1回目の10日後

ポイント：登熟期間中に雨が多い場合は、3回目の散布を行いましょう。

### ⚠ 不稔の発生を助長する主な気象条件

- ・ 出穂期8～10日前の低温（-1℃～-1.5℃に3～4時間遭遇）
- ・ 出穂期前後の降霜
- ・ 出穂期前後に25℃以上の高温に遭遇

## 2 水稻の種子消毒と浸種について

未消毒の種子を購入した場合、ばか苗病や苗立枯病等の種子伝染性病害の防除のため、種子消毒を必ず行いましょう。

浸種期間中は種子が酸素欠乏にならないように、2～3日ごとに新しい水に取り換えます。

### 【種子消毒薬剤の例】

3月16日時点の登録内容です。

農薬名	適用病害虫	希釈倍数	使用方法	使用回数
テクリードCフロアブル	もみ枯細菌病、苗立枯細菌病、褐条病、ばか苗病、いもち病、ごま葉枯病、苗立枯病(リゾープス菌)、苗立枯病(トリコデルマ菌)	200倍	24時間種子浸漬	1回
スミチオン乳剤	イネシンガレセンチュウ	1,000倍	6～72時間浸漬	1回

(裏面あり)

【浸種の日安期間】

種子	浸種温度	浸種日数
消毒種子	10～15℃	8～13日(積算温度120～130℃) 最初の3日程度は水を交換しない。
未消毒種子		種子消毒を行った後、7～12日(積算温度100～120℃)

### 3 水稻の播種ポイント

令和2年産は、移植後の7月の日照不足の影響で茎数が不足したため、穂数不足となり収量が減少した傾向にありました。

必要穂数の確保や異常気象の影響を受けにくくするため、基本技術を徹底しましょう。

【安定栽培のためのポイント】

薄播き・小苗植え（1株当たり3～4本）・坪当たり70株の栽植密度

【播種量】

ポイント：薄播き＋健康な苗づくりで、老化が遅く・活着が良く・茎数が多くなる！

	播種量(g/箱)	箱数(箱/10a)	育苗日数(日)	葉齢(枚)	草丈(cm)
稚苗	乾籾 130	20～23	20	2.2～2.5	12～13
	催芽籾 170				
半中苗	乾籾 100	24～30	25	3.1	13～15
	催芽籾 130				
中苗	乾籾 100	24～30	30	4.1	15～18
	催芽籾 130				

※箱数（最多）は、1株当たり植付本数が4本、栽植密度が坪当たり70株（㎡あたり21株）、安全率120%で計算

※コシヒカリ以外の品種（とちぎの星、あさひの夢）は大粒なので、播種量をとちぎの星で1～2割、あさひの夢で1割増やす。

※葉齢は、鞘葉と不完全葉を除く枚数

☑農作業安全に気をつけましょう

令和元年の1年間で、全国では281件の農作業死亡事故が発生し、尊い命が失われました。このうち、65歳以上の高齢者の事故が88.3%と大部分を占めています。また、事故原因ではトラクターや運搬車等の農業機械作業による事故が65.5%を占めています。

#### 4月～6月は「春の農作業安全確認運動」の実施期間です。

乗用型トラクターの事故が最も多く発生しています！以下のことを心がけましょう。



- ・安全キャップ・フレームのある機種を使用する。
- ・シートベルトとヘルメットを着用する。
- ・ほ場を出る際は、ブレーキの連結ロックを確認する。
- ・日没前の作業終了と、一般道走行に備え反射材を装着、点検する。